

大阪・関西万博
日本館
基本構想

ワークショップ

オンラインミーティング

塩瀬 隆之

佐藤 才哉

A 情報発信チーム

未来を
見せるのが
責務

教育現場
子どもたちに(夢を)
いろいろな
研究者たちが集う場
*箱をもつ意味を考えよう

例えば 小学5年生
自分の息子
(ホルソナ)

多様な
人への
未来

エンジニア
リング

サイエンス
コミュニケーション



指出 一正



市原 えつこ



太刀川 英輔

空間への期待

- 未来の建築の発明
時間を共有するしくみ
- サステナビリティ
- 思想(世界観)が空間をつくらしている
- 参加者が誰かを感じられる空間

かっこいい!!
=手法と思想
が一致している

B 展示

2045年に
社会で活躍する層が
ターゲット!!
マジョリティとマイノリティなどの
いろいろな人が「自分が主役」と思えるように!!

果場者と
スタッフさえも
わけない

モニュメント
というより
共通体験

日本館を
訪れる
「人物像」?

決めうち
してみる

他のバージョン
もちがわりしてみる

情報発信への期待

- 展示のプログラムとしての発信
- コミュニティ化を考える
- コンテンツ化(AR/VR/メディア)
- メンバーに小学生が参加してもらう

コンテンツと
インタラクティブ
情報と展示の
かきねを
なくそう

C 空間

ミュージシャン、アーティスト

バーチャルに人間が
ではなく鳥や魚など
も一緒に共有!!
(言葉を理解できない生物と)
コミュニケーション!!

例えば
母

万博を体験
したことがある人
例えば
「オクトパズ」
「ヴァンチ」
この世にない(なま
ぎん)もあつた

展示への期待

- 時間と空間をリンクしたものに
- 五感を展示、空間に
- オンラインとのかきわりを考える

記憶の
かけ

次回ワークショップ
5年間のプランに具体化していく

OURの境界線はどこか
生態系とどこまでとらえるか

3つの分科会を融合していく